

公的助成金活用など経営強化支援を 組合員・従業員の交流の場を提供

近畿印刷産業機材協同組合(加貫順三理事長)は5月25日、ホテル日航大阪において第62期通常総会を開催。新年度事業および収支予算などを審議し、議案すべて原案通り承認可決するとともに、任期満了に伴う役員改選では加貫理事長の再任を決めた。



▲加貫理事長

5月25日、大阪・中央区のホテル日航大阪で

第62期 通常総会開く

新年度は、公的助成金等活用支援をはじめとする経営強化支援事業のほか、引き続き組合員・従業員の交流の場を提供していく。また人材育成や課題解決支援のための教育・情報事業を展開。とくに、環境経営に関するセミナーや継続雇用制度の周知と対策をテーマとしたセミナーを開催。予算2,107万円を計上した。

【新役員】(敬称略)

- ▽理事長:加貫順三(加貫ローラ製作所)
- ▽副理事長:上野耕治(ウエノ)/杉山絃司(丸薬紙業)/弓倉清(共同精機)
- ▽理事:磯村和孝(富士フィルムグラフィックシステムズ)/大石壽氏(大阪印刷インキ製造)/坂本進(坂本造機)/森澤武士(モリサワ)
- ▽監事:岩本将基(メディアテクノロジージャパン)/下垣充弘(下垣鉄工所)

総会終了後には「大阪の反逆」と題し、毎H新聞社・専門編集委員の近藤勝重氏による講演も行われた。

また、引き続き催された懇親会の席で挨拶に立った加



近藤勝重氏

貫理事長は、大要次のように述べた。

「今週の火曜日22日に634m、自立式電波塔としては世界一の高さになる東京スカイツリーが開業いたしました。昨年の東日本大震災の1週間後にはすでに高さが634mに届いておりましたので、このスカイツリーに幸田露伴の『五重塔』を重ね合わせた方もあります。読まれた方も多いと思いますが、腕前は抜群だが世渡りが下手なため、貧乏大工に甘んじていた十兵衛が、一生に一度腕を振るって、後世に名を残したいと考えて、江戸谷中の感応寺の五重塔を独力で建てたのですが、落成式前夜江戸は暴風雨に襲われ、一夜明けると江戸中大きな被害を受けていましたが、五重塔は一寸一分歪みもせず無傷でそびえ立っていたという物語です。

東京スカイツリーは、伝統建築の五重塔の知恵『心柱』と呼ばれる柱の構造を生かしているようですが、それ以外にも、秒速120mの風に耐えるガラス張りの展望台、高強度の鋼管など現在の日本の技術の結集でもあるそうです。日本のものづくりの力は、まだまだ捨てたものではないという証でしょう。

東の空をいくら眺めても東京スカイツリーは大阪からは見ることができませんが、今週月曜日の21日、朝早くから東の空を眺めた方は多いのではないのでしょうか。

日本列島は太陽の中心部が月に隠れてリング状になる金環日食が本州から九州にかけての太平洋側で観測されました。これほどの広範囲で起きたのは932年ぶり、次に今回のような規模で金環日食が起きるのは300年後の2312年だそうです。日食グラスの向こうに浮かぶ、神秘的な光景は日常の憂さをひと時忘れ去れるに十分な感激を与えてくれましたので、世紀の天体ショーの瞬間、各地で歓声が上がったようです。

昨年の東日本大震災後、坂本九の代表曲『上を向いて歩こう』と『見上げてごらん夜の星を』の2曲が、多くのミュージシャンに歌われたり、復興ソングとしてCMなどに使われたりしましたが、落ち込んでいるときや最悪と言える時こそ、下を向いては解決しない、円高など逆風が多い今だからこそ、『さあ上を向いて』と天が我々に啓示するショーだと考えるのは考えすぎでしょうか。」



総会終了後に開かれた懇親会の様子